

2024年9月17日 Vol.229

不人気内需系 IPO 銘柄復活に期待

8月のクラッシュ相場の記憶から9月に入ってもエヌビディア効果で年初から先導役を担ってきた半導体関連銘柄を中心に全体指数は調整の動き。米国のリセッションが気になるほか、米国の利下げ観測と日銀による利上げなどからこれまで続いてきた円安傾向から円高傾向に移行するとの先読みも背景になっています。また、日本では自民党総裁選の最中であり、米国では大統領選が控える中で政治への関心が高まる中で株式市場もその行方を見守ろうとしているとも言えます。日経平均は7月11日につけた4万2426円から8月5日の3万1156円まで26%余りの調整を見せ、その後は9月2日の高値3万9080円まで25%の上昇を見せるなど波乱含みの展開が見られました。その後、日経平均は3万5247円まで半値押し展開を見せましたが、この間、個別銘柄も大きく変動を強いられました。とりわけ、今年のIPO銘柄には大きく値を消した後に反転上昇を見せるといった変動が見られました。IPO後の株価は投資家の慎重なスタンスから初値やその後の高値から概ね下値模索の展開が見られ、市場には不人気銘柄が溢れているという印象です。

2月7日のSOLIZE(5871)から始まった今年のIPO市場には2月5社、3月15社、4月6社、5月1社、6月11社、7月7社、8月2社の合計47社が既に上場を果たしています。また9月は25日から7社、10月も既に6社(うち2社は地方市場)の上場が承認されています。8月までに上場した47社の多くは初値に対して時価が大きく下落しており、とりわけ8月5日の全体相場のクラッシュによる影響が大半の直近IPO銘柄に現れました。公開価格や上場時の初値と比べて時価が上回っている銘柄は47銘柄のうち17日現在10銘柄となっており、公開価格も初値も下回っている銘柄が22銘柄、公開価格は上回っているが初値は下回っている銘柄が15銘柄となっています。上場後の値動きでパフォーマンスが上がっているのは3月21日に事業規模はプライム銘柄並みに大きいもののグロース市場に上場したスーパー事業を全国展開するトライアルHD(141A)で同社株は公開価格1700円に対して初値2215円、時価は3400円前後となっています。

円安基調が続いてきたため内需系の銘柄が多いIPO銘柄が総じて不人気となり、この結果としてグロース指数が低迷してきましたが、ここに来ての日米金利差の縮小の下で円高傾向が見られ、これまで不人気だった内需系中心の直近IPO銘柄への人気復活が期待されます。こうした局面でIPO後に好業績見通しを出した北海道地盤の住宅メーカー、ロゴスHD(205A)は時価PER8倍、配当利回りも4.8%と比較的割安感があります。グロース市場のIPO銘柄は通常はバリュエーションが高いのですが、このところは押し並べてPERが低い状況です。また、グロース銘柄ではありませんが、4月にスタンダードにIPOしたアズパートナーズ(160A)も時価1890

東京 IPO 特別コラム

円はPERが8.4倍。介護系ながら不動産による収益拡大が好業績につながっている点でややネガティブな印象がもたれているのかと思われますが、今後の高齢化ニーズを背景にして施設増設による業績拡大が見込まれ、いずれは見直されるものと期待されます。不動産系では山口県、広島県を地盤にした土地有効活用会社カドス(211A)も事業拡大中の一方でPERが5.7倍、PBRO.54倍、配当利回り3.88%と低評価。直近IPO銘柄ではアミューズメントフィットネスクラブを直営展開するフィットイージー(212A)人気が継続する可能性を秘めています。

さて、こうした中で、9月25日からはROXX(241A・転職プラットフォーム、ノンデスクワーカー向け主体)、リオプライオリティ(242A・通販支援)、グロースエクスパートナーズ(244A・DX支援)、アスア(246A・物流安全コンサル)、キッズスター(248A・ファミリー向け社会体験アプリ「ごっこランド」の展開)、INGS(245A・ラーメン店など飲食)、Aiロボティクス(247A・AIシステム用いたスキンケア商品、美容家電企画開発販売)、10月1日にはメルコHDの子会社でスピンオフ上場のシマダヤ(250A・2031年に創業100周年を迎える麺専門メーカーで200品目をラインナップ、公開価格は20日決定)が上場を予定しており、秋相場に彩りを添えてくれそうです。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)